



子供たち 先生方の笑顔のために

# 共に歩まん

壁面に掲示してご活用ください

令和5年12月14日発行

第22号

中信教育事務所

ご意見はこちら→ ←過去の「共に歩まん」はこちら

つな  
げる

## シリーズⅢ「教育課程研究協議会特集」⑦ 外国語活動・外国語

### 【外国語】 大桑村立大桑中学校（第1学年）

単元名：ロボットコンテスト ～理想のロボットを発表しよう～

【目指す子供像】 自立した学習者 ～粘り強く学ぶ生徒を目指して～



目指す子供と出会うために

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定する。

クラスで開催する「ロボットコンテスト」に向けて、友やALTの先生に“ほしい”と思ってもらうために、自分で考えた理想のロボットについて紹介する。

2. 単元を通して、互いに発表してアドバイスし合う活動を繰り返し位置付ける。

〈本時の子供の育ち〉

毎日美味しい料理を作ってくれるロボットを紹介しようと考えたAさん。話す内容を記したメモを見ながら発表していたAさんが、発表を重ねていくうちに、“Are you good at cooking?”と友の目を見ながら問いかけ、友の反応を見て発表するようになりました。それは、Aさんが「自分と同じように料理が苦手であれば、毎日料理を作ることの大変さに共感して、きっと“ほしい”と思ってくれる」と考えていたからです。目的の達成に向かっていったAさんの発表は、聞き手に配慮したコミュニケーションとしての発表になっていきました。

本号で「共に歩まん」シリーズⅢ「教育課程研究協議会特集」は最後です。「授業実践をとおして研究協議し、各学校の教育課程の改善や先生方の授業改善等につなげていくこと」を目的として、中信地区管内の56会場で教育課程研究協議会が行われました。今年度は、特に「探究する授業」について共に考え、教育課程研究協議会の目的に迫る機会になりました。

本号を含む全7回の「教育課程研究協議会特集」を、改めて「探究する授業」の視点で整理してみました（下表）。上記二次元コードから過去の号もご参照いただき、「探究する授業」を実践していく手掛かりにしていただければと思います。今回の教育課程研究協議会を、それぞれの学校の教育課程の改善や、先生方の学習指導の改善等につなげ、「一人の子供も取り残されない『多様性を包みこむ』学びの推進」へ向かっていきたいと思います。

【参考】（本年度の重点を）「探究する授業」としたのは、「子供たちが自ら求め、問いの解決に向けて追究する学びを連続させ、自分なりの解を導き出す探究する姿」が全ての教室で見られることを願ったことからです。  
（「令和5年度 教育課程編成・学習指導の基本」（青本）P3より）

子供たちが自ら求めていく問い	18号:音楽、20号:生活、21号:国語
追究する学びの連続	17号:数学、18号:体育、 19号:理科/技術・家庭、21号:特別支援
自分なりの解の創造	15号:図画工作/道徳、17号:社会、 20号:特活、22号:外国語